

兵庫県保険医協会神戸支部 クリニック問題解決座談会パートⅡ

# 労務管理 Q&A

院長先生の個別お悩み受け付けます！

## クリニックの労務管理でお悩みはありませんか？

### —職員の方が定着するクリニックへ

医療機関の経営において、スタッフの存在は非常に重要です。スタッフ雇用にあたっては、賃金、労働時間、有休など様々なルールが定められています。スタッフが定着し、安定した医療機関づくりのためにどうしたらよいのか、神戸支部では保団連発行『医院経営と雇用管理』の書籍を監修されている桂労務士にお聞きする座談会を企画しました。

- ・職員が安心して働ける職場づくりのため、何をやるべきか
- ・メンタル疾患で就労できないスタッフへの配慮
- ・スタッフが社会保険の加入を希望する場合の対応

などなど日ごろ抱えている労務に関する疑問や悩みをお持ちください！

コーヒー・お菓子付  
お気軽にご参加ください



上記以外の労務管理に関する個別質問も募集します。ご参加をお待ちしております！

■お問合せは：TEL 078-393-1817/FAX078-393-1820

メール：[wuyuxi@doc-net.or.jp](mailto:wuyuxi@doc-net.or.jp) (担当：小西・呉)

お申し込みはこのままFAXまたはメールにて 24時間受付中！

日時 5月11日(土) 15時～17時  
 会場 協会6階会議室  
 講師 桂好志郎 社会保険労務士 桂労務社会保険総合事務所  
 対象 院長、事務長、労務担当者など  
 参加費 2000円(書籍『医院経営と雇用管理』代含む) 定員 20人

返信 FAX : 078-393-1820

5月11日 座談会に( )人参加します。

市区町( ) 医療機関( )  
 代表者氏名( ) TEL( )

桂先生に聞きたい質問があればご記入ください

# 兵庫県保険医協会 神戸支部ニュース

374号

2024年3月25日付

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

## 神戸支部研究会に会員ら40人超

### 認知症の未来を見据えて



武田正中先生(右)が認知症早期診断のための検査法と新薬について講演した

神戸支部は2月17日、協会会議室とオンラインで神戸支部研究会「アルツハイマー病の早期診断と対応—疾患修飾薬の登場を見据えて—」を開催。兵庫医科大学病院脳神経内科教授の武田正中先生を講師に、41人が参加した。神戸元町歯科医院・介護支援専門員兼認知症ケア専門士の山本竜也さんの感想を紹介する。

現在、私自身は介護施設で従事している傍ら、神戸元町歯科医院では介護相談等を主に請け負っております。やはり、介護施設ですので、施設で普段生活しておられる方のほとんどは、なにかしらの障害や病気、認知機能面でも不安がある方が集団で日々生活しています。研修のテーマでは、アルツハイマー型認知症の早期診断と対応/薬の登場を見据えてといった内容でした。施設で生活されている方は、高齢者の方が主ですが、すでに認知症の診断がついている方、もしくは全く診断はついていないが、何かしらの理由で、見当識障害や記憶障害の他、周辺症状がみられる方もいます。

今回の研修を通じて、自分自身が感じたこととなりますが、早期診断の重要性は十分わかりますが、まず、受診に至るまでの過程でもかなりハードルが高いように思います。また、確定診断に至るまでには、何度も通院が必要であったり、設備が扱える病院も現時点では、限られていたり地域格差もあります。

また、一度病名がでてしまいますとそれ以上、継続して診療に通うことも少なくなるように感じます。受診に繋げていくためには、費用面の負担の大きさもありますが、受け入れが可能な病院が増えることや、患者様の負担軽減をどのように改善していくか考えなければいけないことだと思います。

(2面につづく)

(1面からのつづき)

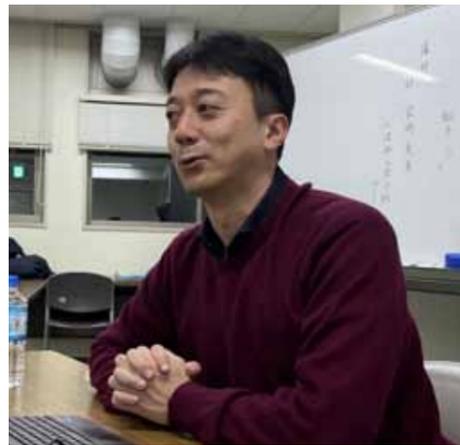
このたび、アルツハイマー型認知症の薬(レカネマブ)が、日本でも承認されました。まだまだ取り扱いの件数も少なく、患者様に行き届くまでには、まだまだ課題も多いと思いますが、こうした、認知症の新たな検査方法(PE T検査、バイオマーカー検査)や診断が早期に分かることで、本人はもちろんのこと、周りに携わっている方が少しでも理解を持ち安心していただけるようになれば、その人の望む暮らしをかなえてあげられるのではないかと思います。

【中央区・神戸元町歯科医院職員 山本 竜也】

健康と医療について語り合う会

50歳過ぎると多くなる病気、ヘルペス(带状疱疹)を知ろう

神戸支部は、2月29日に神戸婦人会館で健康と医療について語り合う会「50歳過ぎると多くなる病気、ヘルペス(带状疱疹)を知ろう」を開催し、24人が参加。これは聴覚障害者らが医療や健康についての情報を学ぼうと定期的に開催する「聴覚障害者の医療を考える会(いのちを考える会)」の講師派遣の要請に応え、神戸支部が運営に協力しているもの。中央区・はやし皮ふ科クリニックの林宏明先生が講師を務めた。参加者の感想を紹介する。



林先生が带状疱疹の発症に伴う神経痛の治療方法を紹介した

带状疱疹の発症のメカニズム、代表的な症状をイラストや写真で説明していただきました。水痘・带状疱疹ウイルスは体の中で潜んでいて、過労や免疫力の低下に伴いウイルスが神経を通じて体の一部に移動し発症するそうです。症状の多くは体の片側の神経に沿って帯状に現れ、症状が重い場合は痛みが出現します。体幹より頭部や顔面に発症した方が重症化しやすく、痛みがひどい場合は夜間不眠や日常生活に支障が出る場合もあります。重症化しないためには早期に治療を開始することが大切です。

带状疱疹は80歳までに3人に1人が発症すると言われ、発症率は50歳代から上昇します。带状疱疹の発症や発症しても重症化を予防するワクチンが現在普及していて、テレビCMでも目にします。ワクチンは2種類あり金額や接種回数が違うそうです。またほかのワクチンと同様に副作用もあります。講演後、副作用に関する質問が出ましたが、副作用は人それぞれで打って見ないとわからない。しかし接種することで発症や重症化の予防になるため接種する時は医師と十分に相談し理解したうえで接種するかどうかを決めることが大切だと思いました。

带状疱疹という言葉はよく聞きますが、今回の講演で実際の病状やワクチンの効果について学ぶことができました。

【加西手話サークルどんぐり 三船 祐佳】

兵庫県保険医協会 神戸支部 職員接遇研修会のご案内



スタッフの接遇の基本とクレーム対応

兵庫県保険医協会神戸支部 支部長 田中 孝明

医療機関では、患者さんが安心して頼ることのできる職員とのコミュニケーションが求められており、接遇の質の向上が、医療への信頼と医院の印象を一層高めることにつながります。神戸支部では、新人スタッフだけでなく、ベテランの方も含めた職員教育の一環として接遇研修会を毎年開催しています。講師には、毎回好評の水原道子先生をお招きし、すぐに実行できる接遇のポイントをはじめ、スタッフへの迷惑行為やクレームの対応法をわかりやすくお話いただきます。ぜひご参加ください。

なお、年2回の研修実施が求められている医療安全管理研修会の一環のため、受講者には受講証を発行させていただきます。

- 日時 6月1日(土) 14:30~16:30
- 会場 協会5階会議室
- 講師 元大手前短期大学 教授 水原 道子 先生
- 参加費 1人 1000円
- 定員 50名 (定員になり次第締め切らせて頂きます)

※新型コロナウイルス感染防止のため、必ず事前申し込みをお願いします。

感染予防対策を行って開催しますが当日はマスクの着用をお願いいたします。

※お問い合わせは、078-393-1807 神戸支部担当：小西まで

神戸支部職員接遇研修会(6月1日)申込書 (FAX: 078-393-1820 までご返信ください)

- 地区[ ] 区] ●医療機関名[ ]
- TEL[ ] ●FAX[ ]

参加者氏名	職種	経験年数
		年 月
		年 月
		年 月
		年 月
		年 月

※満席により受付ができない場合は、担当事務局から連絡させていただきます。

※受付完了、及び、会場案内地図は開催日の一週間前に FAX させていただきます。